

**われら なぞとき たんていだん！  
ほ育園の子を ビーバーのせかいに つれて行こう！  
～ビーバーの大工事 なかがわ しろう～**

学 年：第2学年1組  
児童数：28名  
場 所：2年1組教室

楽しく論理的読解力を育てるポイント



「ビーバーのなぞときすごろく」を作り、地元の保育園児に紹介する活動を設定する。ビーバーについて、園児に分かり易く紹介するという目的・相手意識を持たせた上で、すごろくとしてまとめるために、巢作りの順序を捉え、重要な語や文を考えて選び出す力を付ける。

1 単元のデザイン

単元の重点目標<本校で育てたい資質・能力との関連>

- 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。  
[知識・技能(2)ア]
- ビーバーについての文章の中から、重要な語や文を考えて選び出すことができる。  
[思考力、判断力、表現力等C(1)ウ] <論理的読解力>
- ビーバーを保育園児に紹介するという言語活動に関心を持ち、進んで教材文を読んだり、関連図書から必要な情報を集めたりしようとする。  
[学びに向かう力、人間性等] <積極性>

教材について

教科書教材は、ビーバーの巣作りの様子について、順を追って書かれている。その中で、体の特徴やビーバーの特質等を織り交ぜてビーバーの行動の順序が述べられている。また、本文全体を通して、擬音語や比喻表現、接続語、指示語、説明に対応した写真が効果的に使われており、読み手がイメージを描き易くなる工夫もされている。そのため、これらの筆者の書きぶりにも着目させながら、時間や事柄の順序に関わって、文章の中で重要な語や文を選び出す力を身に付けさせることに適した教材だと考える。

また、情報と情報との関係について理解し、重要な語や文を考えて選び出す力を伸ばすために、副教材「こんにちは、ビーバー」(佐藤英治 文・写真 福音館書店)を活用する。この教材は、ビーバーの生き生きとした生態が記録された写真絵本であり、力強いビーバーの巣作りの様子や、巣の安全性について、数多くの写真や文章から読み取ることができる。二つの教材の比べ読みをさせることで、共通点や相違点、事柄の順序に着目させ、教科書教材の内容をより深く理解することができると思う。

児童について

評価テストの観点	単元前 正答率
○順序を考えながら内容の大体を捉えることができる。	82%
○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。	68%
○事柄に対する理由が適切かどうか、判断することができる。	70%

本学級の児童は、前期に説明文「まほうのかばんランドセル」で読み取ったことをカードにまとめ、園児に紹介する学習を経験している。そして、目的に応じて重要な語や文を考えて選び出すことの大切さを実感してきている。

しかし、実際に、目的に応じて重要な語や文を選び出す力は、弱い。例えば、必要以上の語や文を選び出したり、同じ意味の語や文が重複していたりする。そこで、言語活動の目的を明確にさせ、相手に分かり易く伝えるために重要となる語や文を吟味させる学習を取り入れる必要がある。

また、事柄に対する理由を述べる際に、内容が個人的なものに留まる児童が多い。そのため、より一般的な理由付けをすることのできる力も伸ばしていく必要がある。

指導について

2年生の学習のゴールとして、「ビーバーのなぞときすごろく」を作り、生活科の町探検と関連付けて、園児に紹介するという活動を設定する。園児に、ビーバーの巣作りの様子を分かり易く伝える

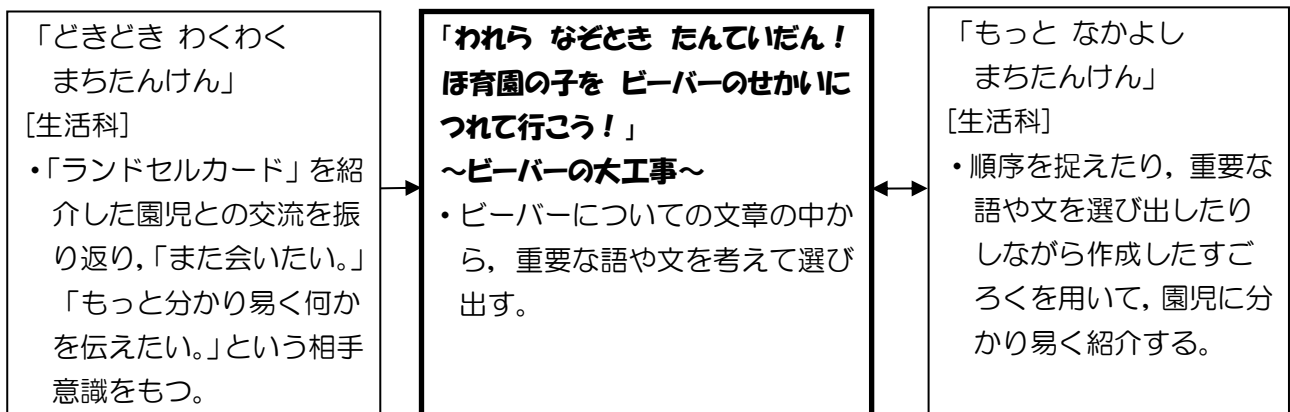
ために、児童には、巣作りの順序を捉える力や、分かり易く伝える上で重要となる語や文を選び出す力を身に付けさせたい。そこで、単元の始めに、教師があえて不完全なすごろくを提示する。巣作りの順序を間違えている点や、一つ一つのマスの絵と言葉が対応していない点を指摘させることで、順序を捉える力や、重要となる語や文を選び出す力を身に付ける必要性に気付かせるようにする。

すごろく作りにおいては、絵に対応した言葉をまとめる際に、文字数に制限をかけることで、より重要となる語や文を吟味させるようにする。具体的には、まず、重要となる語や文に線を引かせ、その理由を考えさせることから始める。そして、互いに考えを共有し合う中で、選び出した語や文が本当に必要かどうかを吟味させる。児童の発言を受けて、時には、教師が問い返したり、分類整理したりして、吟味する語や文を焦点化させるようにする。

## 2 単元の重点目標に対する評価規準

知識・技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学びに向かう態度
共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。	ビーバーについての文章の中から, 重要な語や文を考えて選び出している。	「ビーバーのなぞときすごろく」作りを通して, 進んで教材文を読んだり, 関連図書から必要な情報を集めたりしている。

## 3 他教科等との関連



## 4 指導計画 (全 13 時間)

次	学習活動(時)	評価			指導の留意事項
		知	思	主	
○ 出会い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな生き物の巣のクイズを解く。</li> <li>・地元の保育園からの動画を見て, 園児との二度目の交流活動に興味をもつ。</li> </ul>			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巣にまつわる「なぞ」(作り方, 安全性)を解き明かしたいという意欲をもたせる。</li> <li>・前期に交流した園児からの願いを聞き, 再び交流したいという意欲をもたせる。</li> </ul>
一 見通し	<p><b>課題の発見①(2)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ビーバーの大工事」を読み, 初発の感想を書く。</li> <li>・「なぞ」を共有し, 学習計画を立てる。</li> </ul>			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が, 不完全な「ビーバーのなぞときすごろく」を提示することで, すごろく作りに必要な次の2点に気付かせる。</li> <li>①大工事の順序を正しく捉えること。</li> <li>②一つ一つのマスの絵に対応する重要な語や文を選び出し, 短くまとめること。</li> </ul>

一 構造と内容の把握	<b>課題の追究①（６）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビーバーが大工事を進めた理由を考える。</li> </ul>		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大工事を進めた一番大きな理由について読み取らせる。（逆思考の読み）</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大工事の順序を捉える。</li> </ul>		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意味段落の見出しを隠したり，挿絵を並び替えたりすることで，大工事の順序や内容の大体を捉えさせる。</li> </ul>
三 精査・解釈	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビーバーの身体的特徴や仕事を読み取り，すごろくに一つ一つまとめる。（３） （なぞ①）</li> </ul>		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すごろくの絵に合う語や文を選び出させ，制限文字数の中で，短くまとめさせる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巣が安全だと言える理由を考える。 （なぞ②）</li> </ul>		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を根拠に，巣が安全だと言える理由を選び出すとともに，その理由が適切かどうか吟味させる。</li> </ul>
	<b>課題の発見②（１）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第１次で立てた学習計画を修正し，より詳しいすごろくを作るという見通しをもつ。</li> </ul>		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書教材だけでは詳しく分からないことに着目させ，副教材「こんにちは，ビーバー」と比べ読むことへの動機付けを図る。</li> </ul>
	<b>課題の追究②（１）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビーバーの巣の安全性について，比べ読みをして新しく分かったことをすごろくに書き足す。  （本時 10/13）</li> </ul>		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巣の安全性について，「なるほど！」と納得した箇所に着目させながら，重要な語や文を選び出させ，吟味させる。</li> <li>・ビーバーの巣が安全であることに対する理由を考えさせる。</li> </ul>
	<b>学びの深化（２）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習対象のビーバーについて，感想をもつ。</li> </ul>		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想を書かせるようにする。</li> </ul>
四 考えの形成・共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園に行って，すごろくを紹介する。</li> </ul>		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児には，まず，２つのなぞを提示する。その後，すごろくを見せながら，２つのなぞに対応した巣作りの順序，巣の安全性について，分かり易く紹介させる。</li> </ul>
	<b>まとめ・振り返り（１）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元のまとめと振り返りを行う。</li> </ul>		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の学習を通して，学んだことや身に付いた力をまとめさせる。</li> </ul>

## 5 本時の展開

### (1) 本時の目標

ビーバーの巣の安全性について比べ読みをする活動を通して、教科書教材に書かれていない重要な語や文を見付けることができる。

### (2) 本時の学習展開 (10/13)

展開(形態)	主な学習活動と予想される児童の思考	教師の働きかけ ◎評価規準 (方法) ◇配慮を要する児童への手立て
つかむ(全体)	<p>○もしクマが襲ってきた場合、巣は安全かどうか、予想する。</p> <p><u>&lt;安全ではない&gt;</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土と泥で固めて作った巣だと、クマの力ですぐに壊れるから。</li> </ul> <p><u>&lt;安全である&gt;</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>湖の真ん中までクマは泳げないから。</li> <li>巣の出入り口には入れないから。</li> </ul> <p>○教師による副教材の音読を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ビーバーは、助かったね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クマが襲ってくる状況を具体的に想起させることで、巣の安全性について、揺さぶりをかける。</li> <li>巣が安全かどうか、どちらかの立場に立たせる。そして、自分の主張について、教科書教材から得た情報や、自分が既にもっている知識等をもとに理由を述べさせる。</li> </ul> <p>◇音声言語の情報を先に与えることで、副教材の文章に対するイメージを豊かにさせる。</p>
考えを出し合い、吟味する(個→グループ→全体)	<p>○比べ読みをして、ビーバーの巣の安全性について書かれた箇所を見付ける。</p> <p>児童が根拠として選ぶと予想される箇所</p> <p><u>&lt;教科書教材と内容が似ている箇所&gt;</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>クマが中に入りたくても、すへの出入り口は水の中にしかありません。</li> </ul> <p><u>&lt;教科書教材に記載されていない箇所&gt;</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>クマは、ジャンプして水をとびこえ、すの上にとびのりました。</li> <li>大きなクマがとびのっても、力いっぱいほりかえしても、ビーバーのすはなかなかくずれません。</li> <li>クマがすの上であばれているあいだに、ビーバーは水中ににげてしまいました。</li> </ul>	<p>・巣の安全性について、「なるほど！」と納得した箇所に着目させながら、重要な語や文に線を短く引かせる。そして、「どうして、その言葉や文を選んだのか。」を話し合いの視点として、重要な語や文について吟味、対話させる。</p> <p>・話し合いが進まない時は、ビーバーやクマの様子を動作化させることで、イメージさせたものと語や文を関連付けるようにする。</p> <p>・二つの教材文の共通点や相違点を分類整理することで、教科書教材に書かれていない事実に着目させる。</p>

ビーバーのすが、あんぜんだと言えるりゆうを新しく見つけよう。

○比べ読みを通して新しく分かった事実をすごろくにまとめる。

◎教科書に書かれていない事実の中から、重要な語や文を選び出し、すごろくの「なぞ②」の答えをまとめている。  
(なぞときすごろくの最後のページ)

◎おおむね満足できる児童の姿

(ビーバーのすは、あんぜんです。わけは・・・)

- ・大きなクマが、すを力いっぱいほりかえしても、なかなかくずれないからです。
- ・クマがすの上であばれているあいだに、ビーバーは水中ににげることができるからです。

○本時の学習を振り返る。

・比べ読みによって、「なぞ②」を解決することができたかを視点に、本時の学習を振り返らせる。

(3) 板書計画

